

# いたわる

## 脳卒中の後遺症

脳卒中の後遺症は、発症から3、4カ月以降は改善しにくいというのが「定説」だが、そうとばかりは言えないようだ。東京慈恵会医科大学―東京都の安保雅博教授が考案、世界に先駆けて始めた、連続経頭蓋磁気刺激と集中的作業療法をセットにした後遺症の新治療(NEUROニューロ)が、慢性期の症状の改善にも成果を上げている。国内八つの協力医療施設の一つ、松本市の相沢病院の事例と共に紹介する。

# 逆転の発想で症状改善

### ▽逆転の発想で

脳卒中で脳を損傷するとこれまで、損傷していない側(健側)が、損傷した側(病側)の機能を助けるものと考えられてきた。安保教授は、動物実験や臨床研究で健側が、ま

の回復段階で病側の機能を抑えにかかっているのではないかと仮定。患者の健側の脳に磁気刺激を与えて働きを抑え、続けて良質な訓練をすると、動か

### ▽ニューロとは

ていた上肢まひ治療法として確立。平成20年に世界に先駆けて、東京慈恵会医科大学付属病院でこの治療を始めた。安保教授は4月、松本市の相沢病院で行われた市民講座で講演し「定説を捨ててリハビリを考え直し、よくならないと言われていた人を回復させたかった」と研究動機を述べ、治療を説明した。

### ▽治療は30分で受けられるのか

安保教授の研究に協力する医療機関は全国に八つで、県内では相沢病院だけとなる。相沢病院では昨年8月から始め、4月27日までに30〜80代の50人に実施した。効果は、同病院総合リハビリテーションセンターが行う二つの学術評価では「改善」を示さなかった人を含め、ほぼ全員で運動機能や日常生活の使用感に変化が見られたという。同セン

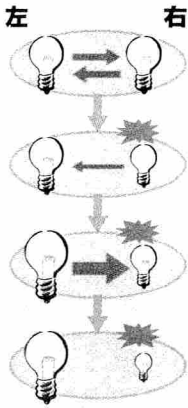
### ▽費用は

でなく、透析をしない、心臓ペースメーカーが入っていない、九つの適応基準を全て満たす人が対象になる。連続経頭蓋磁気刺激に関する費用は、実施医療機関が負担するため、患者は入院費やリハビリ費のみの負担になる。相沢病院の場合、患者負担は、加入保険で異なるが20万円程度から。治療希望者はまず同病院リハビリテーション科を受診する。適応基準を満たせば治療予約ができるが、4月末時点で予約待ち期間はおおよそ半年となる。(白沢幸恵)



市民講座で講演する安保教授

ターの作業療法士・並木幸司主任は「もう少しの改善を望んでいて適応基準を満たす人は、積極的に検討してよい治療ではないか」という。



健常人では、半球間抑制の程度は左右ともに等しく、半球の興奮性も左右等しい。

脳卒中が発生すると、病側大脳の興奮性が低下、病側から健側への抑制も小さくなる。

抑制から開放されて健側大脳の興奮性が増加、健側から病側への抑制も大きくなる。

結果的に病側大脳の興奮性は、さらに低下する。

健側と病側との関係性を表すイメージ図へ出典：安保教授講演資料より

連続経頭蓋磁気刺激治療(rTMS治療)とは  
磁気を発生させるコイルを頭蓋骨上に当て、健側の大脳局所に低頻度磁気刺激を与えるだけ。痛みはなく患者は安静にしていればいい。

▽治療できる人は  
現在のところ、16歳以上で認知症やうつ病

元気  
びより